



第2回のCrossTalkは、前回に引き続き『在学生×先輩 Cross Talk』をお送りします。

今回は、仕事がお休みの日に学校を訪ねて来てくれた安永夏希さん（平成27年度卒業）が、2年生の重松未羽さんに、これから本格化する就職活動についてのアドバイスをしてくれました。

重松（在学生）：先輩は地元へ帰られて就職したと聞いたんですが。

安永（先輩）：そう。今、地元の地域密着型の特養で働いてる。元々、地元で就職したいって思ってたから、就職活動は地元の施設で考えて。重松さんも、地元は今治じゃないよね？

重松：はい、松山です。私も就職は地元でって思ってるんですけど、実習で行く施設って、ほとんどが今治市内じゃないですか？実習に行かせていただくと、その施設のこととか雰囲気を少し知れることもあると思うんですけど、そういう意味で、地元の施設の情報ほとんどなくて…。就職活動、どうしていったらいいかな～っていうのが最近の悩みなんです。

安永：どういう所で働きたいって思ってる？高齢者施設なのか、障がい者施設なのか。高齢者施設でも、特養、老健、デイサービス、グループホーム…挙げきれないくらいいっぱいあると思うけど、どう？

重松：えー…。正直そこまで決め切れてないです…。

在 学 生 **CROSS talk** 先 輩



第2回ゲスト

平成27年度卒業

安永 夏希さん

地域密着型介護老人福祉施設勤務

安永：うん。じゃあ、まずはそこを見つけることから始めないとね！今、介護福祉士が活躍できる場って本当にたくさんあるし、介護福祉士を求めている職場もたくさんあると思うんだ。地元の施設でって大きな目標だけじゃなくて、どんな施設で働きたいのかとか、どんな仕事をしたいのかっていう具体的なことも考えながら活動した方がいいと思うよ。

重松：そうですね。どんな所で働きたいか、どんな仕事をしたいか、大事なことですね。じっくり考えてみます。

先輩はずっと特養で働きたいって思ってたんですか？

安永：ううん、実は私も最初は漠然としてたよ。ただ、2年生の実習を重ねていくうちに、終末期の看取り方とか介護のあり方とかをすごく考えるようになって、それで特養で働きたいって思うようになってね。今お世話になってる法人内には特養だけじゃなくていろんな施設があるから、配属がどこになるかはわからなかったんだけど、面接で、とにかく自分は特養で働きたいんです！って気持ちをすっっごい伝えて。(笑)

重松：すごい！

安永：そのお陰かどうかはわからないけど、ありがたいことに、今は希望だった特養で働かせてもらってるから幸せな社会人デビューだったなって思ってる。(笑)

ただ、これから先、異動がないわけじゃないと思うし、もしかしたら希望じゃない施設とか、不得意ジャンルの仕事とかに出会うこともあるかもしれないけど、ひとつひとつの経験は絶対繋がっていくと思うし、自分のものになっていくと信じて、頑張るしかないよね。

重松：具体的には、いつくらいから就職活動をはじめたんですか？

安永：2年生の夏休みくらいだったかな。さっきも言ったけど、地元の施設で働きたいっていうのはあったから、夏休みに施設の見学をさせてもらって。

重松：見学？

安永：そう。実習先だったら、少しは雰囲気とかもわかるかもしれないけど、何の情報もないまま、エントリーして、面接していただいて、っていうのは………ね。働きはじめて「あれ？」って思うのも嫌だしね。(笑)

見学をさせていただき施設もたくさんあるから、そういうのを利用して事前に見ておくのは絶対お勧めする。そういうのができる時間って、実習に行ってる時期なんかは絶対無理だから、実習が終わって、前期の試験も終わった夏休みがいいと思うよ。時間もいっぱいあるし、気持ちの余裕もあるし、ね。(笑)

重松：夏休みに見学に行けるように、今から色々調べてみようと思います。

安永：そうだね。これから実習も始まると思うし、今度の実習は実技的なことも入ってくるから、より具体的に自分がどういう仕事がしたいかっていうのも見つかるんじゃないかな。

重松：はい。先輩は、特養での仕事っていかがですか？

安永：毎日大変で毎日新鮮で毎日楽しい！（笑）まだ働きはじめて2カ月だから覚えることもいっぱいだけど、楽しいよ。

重松：どんな時が1番楽しいですか？

安永：できなかったことができた時の達成感というか、喜びの大きいところかな。

例えば、利用者さんをベッドから起こす時、教わったような体勢でしがみついたらと、私、利用者さんに引っ張られて倒れてしまうのね。でもそれ、利用者さんはすごく不安になるじゃない？それで、今日はこうしてみよう、明日はこうかなって、毎日色んな方法考えて試してるうちに、私だったら、こう（両手を首にまわして）しがみついたらより、片手は首、片手は脇から背中にしがみついたらの方がやりやすいなっていうのに気づいてね。もちろん、そこにいきつくまでに利用者さんにいっぱい協力してもらったし、嫌な思いもさせてしまったと思うけど、ずっと起こせた時に、利用者さんがすごく喜んでくれたのが嬉しくて。

利用者さんの笑顔とか「ありがとう」とかは、もちろん喜びなんだけど、こうしたらできた！っていう喜びもすごく大きい。



重松：今、勉強してることだけが全てじゃないんですね。やっぱり経験は大事ですね。

安永：そうだね。学校で勉強することは基本だから当然大事だけど、施設によってもやり方は違うし、利用者ひとりひとりの状態によって変えないといけないし、私もそうだけど、介助する側の体格とかで不得意な方法とかもあるし。でも、そういうの、実習中に嫌っていうほど思い知ると思う！（笑）

重松：えー！本当ですか？不安なような…楽しみなような…。

安永：1年生の実習、どうだった？

重松：楽しかったです。

安永：「楽しかった」って言えるんだったら大丈夫！

重松：本当ですか？じゃあ、まず、楽しんで実習できるように頑張ります。でも、やっぱり不安も大きいので、アドバイスください！

安永：私の経験だけど、できなかったことをできないままで終わらないように気をつけてたよ。どうしたらできるか、どうしたらいいか、自分だけで考えても絶対答えは見つからないから指導者さんに「こうしてみたんですけど、こういうかんじになってしまうんです。どうしたらいいですか？」とか「こういう時はどうすればいいですか？」とか、とにかく聞いて、聞いて、しつこいくらい聞いて！（笑）何回同じこと聞いても、絶対、嫌がったり、迷惑がったりする方はいないから大丈夫。それに、それでできた時、指導者さんも一緒に喜んでくれてすごい嬉しかった思い出があるな～。

もちろん、簡単にはできないことも多かったけど、それは次の課題にしていけばいいし。経験豊富な現場の方々に教えてもらえるのは実習生の特権だと思うし、どうせだったらいっぱい吸収して帰れるように積極的に、前向きに、ね。

重松：はい！今日、先輩にお話を伺えて、実習も就職活動も頑張れそうな気がしてきました！ありがとうございました。

安永：あとは、笑顔！これが1番大事！

重松：はいっ！！（にこっ）



急遽お願いして実現した今回の対談。
事前の準備もおもてなしもできなかったのですが、
「じゃあ介護実習室で！」と言って、
「懐かしい！」と喜んでくれた安永さん。
この小さい身体のどこにそんなパワーが？
と思うほど『介護福祉士』という仕事に対する
“想い”や“情熱”を話してくれました。

頼もしい先輩に、頼もしい介護福祉士に、なった姿に感動！
また、後輩にいろんな経験を伝えに来てくださいね。